

大阪の 社会福祉

The social welfare
in OSAKA

2021.8
795

CONTENTS	
西淀川区	3密は避けても親密さは失わない！ 「にしよど絵手紙交流プロジェクト」
福島区	「いってきますー」が言える場所 「ななほしモーニング」オープン！
此花区	「このはなドリル」で自粛期間も楽しく元気に オンラインであつまれ！NHKおうち防災 子どもと一緒に備えよう！
中央区	「60→70」10年で何を培い、何を未来に繋いでいくのか 「コロナでもこれならできる！」活動メニュー集①
市社協・区社協	「事業紹介動画」、 現在制作中！市・区社協の魅力を発信！
障がい福祉サービス事業所	「ゆうゆう美波途」 ラジオ体操でつなぐ地域との「つながり」

12 12 11 7 5 4 3 2

社会福祉 大阪市社会福祉協議会

<http://www.osaka-sishakyo.jp>



心を込めて描いた絵手紙が、施設で暮らす高齢者のもとへ

西淀川区

3密は避けても親密さは失わない！
「コロナ禍に心を結ぶ」
「にしよど絵手紙交流プロジェクト」

西淀川区社協は7月8日、淀商業高等学校（西淀川区野里）の福祉ボランティア科の授業で、区ボランティア・市民活動センター登録ボランティアグループ「絵手紙「遊楽の会」とともに「にしよど絵手紙交流プロジェクト」第2弾を実施しました。「絵手紙」を通じて、高校生の地元ボランティアと交流し、施設で暮らす高齢者に思いを届ける試みが動き出しました。

（2面につづく）

HB

ちょっと事情があつて、小学校4年生の孫が丸坊主になつた▼散髪屋に行くまで平気だったのに、実際に丸坊主になつてしまった途端に不安になつたよう。「明日学校に行つたら、みんなになつて言われるかなあ」と心配しだした▼みんなと違うことはなかなか受け入れられない。時には排除の対象になつて、つらい目に合う。長期化するといわゆるいじめになる。かつて私が東京に転勤になつた時、子どもたちは転校を拒否。言葉が違うといじめにあうというのがその理由だった。こどもの世界では、それほど同じことが大切なのだ▼ところが孫は、翌日学校から帰ってくるなり、大丈夫だったとニコニコ顔。学校へ行くなり最初に気づいてくれた女の子が、大きな声で「まあ、かわいい」と▼その一言でクラスの中で丸坊主は承認されてしまった。もしかしたら、ほかの誰よりもその子に気に入ってもらえるかどうか、孫にとつては大事なことが、わたしの孫にない▼私はみんなと一緒に、「僕だけ」という方がかっこいいと思うが、こどもの世界では僕だけみんなと違うのは大変なことらしい。

(石)

地域活動も実習も「中止」が続く中で

さかのぼること半年前。区社協ではコロナ禍で「ボランティア活動の機会が制限されていること」「地域の高齢者は交流（サロン活動など）の機会が減り気分の落ち込みやうつ状態気味になりフレイルリスクが高まっていること」から、地域支援担当と生活支援体制整備事業担当との

協働で、3密を避けたつながりの機会をつくる「にしよど絵手紙交流プロジェクト」を始動！

第1弾は、「集まらなくても自宅でできる活動」として絵手紙ボランティア養成講座をオンラインで開催しました。受講した方にもしていない方にも絵手紙を募集し、集まった絵手紙182通は、地域の高齢者食事サービスでお弁当とともに利用者へ配付しました。



それぞれ自分なりの味を出した絵手紙が出来上がりました

一方、府下の公立高校で唯一福祉科を持つ淀商業高等学校は「施設実習ができません、外部との交流の制約がある中で実体験が抜け落ちたまま現場に送り出すことになる」という課題を感じ

のもとに届けることに。1〜3年生の全学年で実施しました。生活支援コーディネーターの大山千裕さんは「キャッチした課題を逃さず共有し、様々な人を巻き込んで取り組むことで「三方よし」の活動につながりました。今後も「にしよど絵手紙交流プロジェクト」は世代間交流の機会や個人ボランティアの活躍の機会として継続していきます」と話します。

地域ボランティアとの世代間交流を楽しむ

講師は、長年絵手紙を通して高齢者施設などで活動しているボランティアグループ「遊楽の会」。代表の赤嶺幸子さんは「メールやLINEばかりの学生さんに、心を込めて書いた手紙は必ず喜んでもらえることを伝えたい」と話します。生徒たちは、それぞれ用意したモチーフを眺め、「コロナで家族とも会えない施設入居者の方を想像しながら」描いたり、「夏祭りの感じを味わってほしい」とラムネ瓶を描いたりして楽しんでいました。



学生との交流に「遊楽の会」メンバーも楽しそう

い、ヘタがいい」と最初に言ってもらえ、みな自分なりの味を出しているのかもしれない。この体験は、学生たちが卒業して、施設や地域でレクリエーションをするときにも活かせるかもしれません。

出会いと学びを広げるために

区社協・地域支援担当の金子千紘さんは、「今回の取組みは、施設の高齢者とのつながりだけでなく、ボランティアと学生の世代間交流にもなりまし

た。最初は「誰やねん」と思われたかもしれませんが、その気持ちもわかるので、どうしたらうまく伝えられるかを今、試行錯誤中です。座学より、体験のほうが印象に残りやすいので、こうした機会を通じて、学生さんたちが人とつながりに関心を持ってくれたらうれしいです」

学生たちの真心が詰まった絵手紙は、これから区内の高齢者施設に届けられる予定です。この後の展開は、本誌でも改めてお伝えします。

「いつてきますす！」が言える場所 「ななほしモーニング」オープン！

都会の真ん中の 朝ごはんも子ども食堂

大規模マンションが建ち並ぶ野田阪神駅近く、セブンイレブンの野田阪神駅北店のイートインスペースを利用して、7月14日、子ども食堂「ななほしモーニング」がオープンしました。午前7時過ぎ、続々とやってくる登校前の子どもたちを、同店・店長の大井川佑貴さんとボランティアが「おはよう！」の声と笑顔で迎えます。

一週間前におこなわれたプレオープンには17人の子どもが参加、そしてこの日は23人がやってきました。

大井川さんはこれまで、ななほしカフェ（試食会）や子どもの出張ひろばの取組みを重ねる中で、「コンビニも地域の居場所のひとつになることが大切」という思いを強くしていきました。大井川さんから「朝ごはんのこ

も食堂ができれば」と相談を受けた区社協・地域支援担当の丸谷昌広さんは、大井川さんと一緒に、連合町会長や女性会長、民生委員長への説明や学校と打合せをおこない、地域に根ざした居場所になるように進めてきました。



ボランティアを先頭にみんな揃って登校



友だちの姿を見つけ、コンビニの2階から手を振ります



も食堂ができれば」と相談を受けた区社協・地域支援担当の丸谷昌広さんは、大井川さんと一緒に、連合町会長や女性会長、民生委員長への説明や学校と打合せをおこない、地域に根ざした居場所になるように進めてきました。



ボランティアのエプロンには星のワッペン



好きなパンと飲み物を選びます

たちと顔見知りになって、道で会った時に声をかけてもらえるようになればうれしい」と話しました。
8時過ぎ、朝ごはんを終えた子どもたちは、みんな揃って集団登校。安心安全に学校へ行けるよう、通学路にある大きな交差点を渡るまでボランティアが付き添います。これも学校と相談した結果です。

朝ごはんも登校もみんな

お揃いのオレンジのエプロンに、星があしらわれたワッペンをつけたボランティアがななほしモーニングを一緒に支えます。4月に開催した「こどもの居場所活動ボランティア講座」の修了者や個人登録のボランティアに声をかけ、現在6人が携わっています。
この日のボランティアの一人は「このコンビニの近くのマンションに引っ越してきて1年半。地域で何かつながりを持ちたいと思っていました。こども

いつか「おかえり」も

大井川さんは「いつてきますす」「いつてらっしゃい」そんな言葉が当たり前に言える場所になればと思っています。将来は、放課後の宿題スペースとして開放して、「おかえり」も言いたいですね。
丸谷さんは「地域の大人たちがいつてらっしゃいと見送る姿に感動します。地域でこどもを支える活動の素晴らしさが見えました。今後も、地域の心の居場所づくりに、一緒に取り組んでいきます」と話しました。

「このはなドリル」で 自粛期間も楽しく元気に

**地域活動が
ストッピングしている中で**

此花区社協では、令和3年4月と6月に「このはなドリル」を発行しました。新型コロナウイルスへの感染予防のため、まだまだ外出を控えている高齢者に、自宅で頭の体操や手指の体操をしてもらえたらと作成したものです。

このドリルを作成した区社協・生活支援コーディネーターの小林加奈さんは、コロナ禍で地域活動がストッピングしている中、何ができるかを模索していました。前任の生活支援コーディネーターが発行していた「コーディネーター通信」にクイズが掲載されているのを見て、「これなら家でひとりでも楽しめるなあ」と感じたことを



区社協・生活支援コーディネーターの小林加奈さん

思い出しました。

一枚だとすぐに終わってしまいうので、一日一枚、一週間分の7枚にしよう。表紙には季節感を感じてもらえるイラストとメッセージも載せよう。名前は「このはなドリル」にしよう。こうして小林さんなりのアイデアが加わったドリルが完成しました。

**社協のことも
知ってもらいたい**

「このはなドリル」には、迷路や早口言葉、計算問題などの他に、間違い探しやクイズも掲載されています。たとえば、6月号の間違い探しは、区社協職員にモデルをお願いした写真で作りました。これは、地域に出かける機会が少なくなっている今だからこそ、職員の顔を覚えてもらえるようにと考えたためです。また、クイズのテーマが災害ボランティアセンターになつていたり、社協の取組みや役割がわかる「仕掛け」が取り入れられています。

「他区で、高齢の方が集まっ

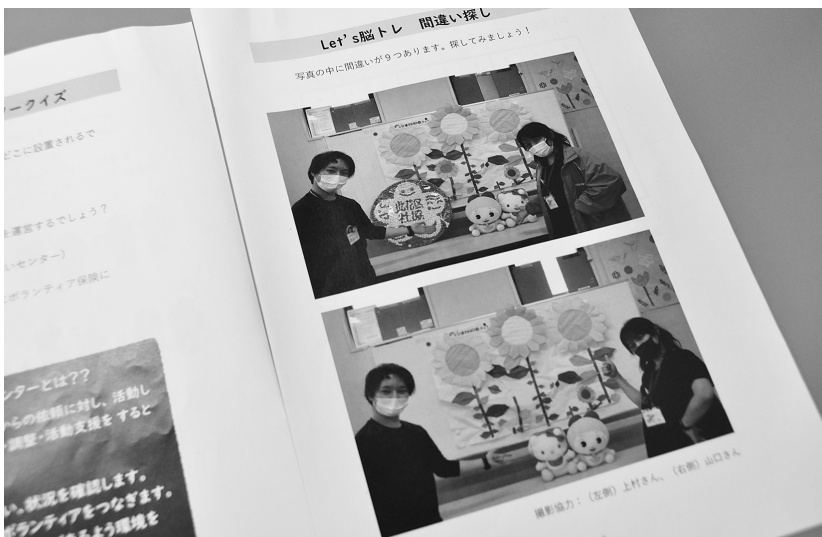
て勉強する場があると聞いて『いいな』と思いましたが、コロナ禍の中で集まるような居場所づくりはハードルが高いし、集団が苦手な人もいるかもと考えました」と、小林さんは話します。集まれなくても、自宅で少しでも楽しく、元気に過ごし

てもらいたい、そんな思いを込めました。

発信と活用に向けて

現在、区社協の窓口や老人福祉センターで配布していますが、区内のケアマネジャーや地域包括支援センターからも「ほしい」と声があつたり、区社協だよりに掲載した時には、電話で感想を伝えてくれた方もいました。今後はSNSを活用して発信していくこ

とも考えています。「今は社協と関わりがなくても、他のどこかや何かでつながっている人がこのドリルを手にとってくれ、社協ともつながってくれたらうれしいです。高齢者に限らず、こどもと一緒にやってもらうのもいいかもしれません。地域活動が再開しても、このドリルの発行は続けていきたいです」と小林さん。ふれあい喫茶が再開できたら、交流に使うことも考えていると言います。



区社協職員が間違い探しに登場（「このはなドリル」6月号）



4月号（左）と6月号（右）



オンラインであつまれ！NHKおうち防災

子どもと一緒に備えよう

乳幼児のいる家庭の 防災を応援

6月19日、中央区社協はNHKとの共催イベント「オンラインであつまれ！NHKおうち防災」子どもと一緒に備えよう」を開催しました。イベントは、日々の育児に追われ、備えに手が回らない0〜3歳のお子さんのいる家庭を対象に、防災の基本や在宅避難の「備え」を楽しく・わかりやすく伝



はぐ・スマイルのみなさん

はぐ・スマイルは、平成23年から毎年『乳幼児のための救急防災教室』を開催してきました。平成31年、NHK職員のSさんが『乳幼児のための救急と防災教室』にパパとして参加し、その1年後、Sさんから区社協・地域支援担当の中納宏之さんへ企画を持ちかけられて、今回のイベント開催につながりました。

2年前の 防災イベントが縁

はぐ・スマイルは、平成23年から毎年『乳幼児のための救急防災教室』を開催してきました。平成31年、NHK職員のSさんが『乳幼児のための救急と防災教室』にパパとして参加し、その1年後、Sさんから区社協・地域支援担当の中納宏之さんへ企画を持ちかけられて、今回のイベント開催につながりました。

えるものです。

講師には、防災士で「ママコミュニティドットコム」代表の出水眞由美さん、スペシャルゲストには、1児のパパでもあるタレント・りゅうちえるさんがリモート参加しました。そして、参加者同士が交流する場面でファシリテーターを務めたのが、区社協のアクションプラン「子育て支援 はぐ・スマイル」のメンバーです。イベントには午前10組26人・午後21組60人が参加しました。



「おうち防災について考えてみたい」と参加者のみなさん

た。

約60分の生中継。前半は、参加者同士で、我が家の防災グッズを見せ合い、停電の時、光を拡散できるペックトポトル照明を一緒につくり、部屋の電気を消して明るさを確かめました。また、東日本大震災で被災経験のある先輩ママが、在宅避難の現実について語ります。

最後のC（コミュニケーション）では「近所づきあいしていますか？」の質問に、「していません。あいさつだけ」という参加者も。メンバーが「あいさつも立派な近所づきあいですよ」と伝えたら笑顔になられたそうです。

はぐ・スマイル代表の新井洋子さんは「いろんな形で開催できることがわかりました。カードを使って勉強を重ね、地域に広めていきたい」と力強く答えてくれました。中納さんも「家族で防災について考えるいい機会になったと思います。はぐ・スマイルさんの地域に根ざした活動を応援していきます」と話しました。

「あの時のイベントがご縁で声をかけてもらえるなんてうれしいですね。9年間の集大成のつもりで、例年以上に力を入れたので伝わったのかもしれない」と感激のはぐ・スマイル。最初は、NHK社屋内でイベントをおこなう予定でしたが、5月の緊急事態宣言の影響を受け中止に。関係者が肩を落としているときに、Sさんから「オンラインで開催しませんか」と提案され、ようやく実現したのです。

挨拶は立派な 近所づきあい

はぐ・スマイルメンバーを中心に区社協内5箇所から端末で

後半は、「TKB+C」カードで日頃の備えをふりかえります。TKBとは避難のキーワード「トイレ・キッチン・ベッド」の頭文字、これに災害時に助け合える関係づくりの意味で「+C（コミュニケーション）」を加えたオリジナルカードを用意しました。トイレの回数を減らすために水分制限をしてはいけないため、携帯トイレは夫婦2人で98セット（1週間分）が必要、食料は多めに購入し自然解凍の冷凍食品が便利など、「必要な備蓄の量や避難ルートが具体的にわかり、持ち物や暮らしを見直すいい機会になりました」と参加者。



TKB+Cカード。イラスト部分がシールになっており、こどもと一緒に「備え」について考えられる工夫も



10年で何を培い、何を未来に繋いでいくのか

―災害に関する取組みのこれまでとこれから―

調整や対応に追われているような状態でした。当時、現地では活動した職員は「マニュアルにはない状況への臨機応変な対応と判断の連続であり、平時の積み重ねが非常時の対応につながる」と話します。

一方、大阪では何かできることがないかと市民の方から多数の問い合わせをいただき、支援物資の仕分けボランティアやボランティアバスへの参加、県外避難者向けイベントや復興支援イベントの運営ボランティア

等、多くの場面で力を寄せていただきました。時間の経過とともにニーズも多様化・個別化し、10年が経過した今は大阪府下県外避難者支援団体等連絡協議会（ホッとネットおおさか）の事務局として県外避難者への支援活動に取り組んでいます。

多発化する災害、地元も被災地に

東日本大震災以降、大阪府社協として職員を派遣した災害は

平成30年6月18日の大阪府北部地震。大阪府北部で最大震度6弱を観測した地震は通勤途上となる時間帯に発生しました。市社協でも当日午前9時ま

阪も二度被災し、地元での支援活動も展開してきました。市社協ではこの10年間の多様な経験を教訓に、いつか来る災害に対して、平時からできる備えを進めています。

未曾有の大災害

東日本大震災が起きて5日後の3月16日には先遣隊として職員5名を仙台市社協に派遣し、現地での支援活動を開始しました。震災直後の災害ボランティアセンター（以下、災害VC）立ちあげ期ということもあり、現地は、震災後休むことなく早朝から夜遅くまで関係機関との



大阪の善意がたくさん集まった街頭募金（熊本地震）



発災当日、職員の安否確認や各区社協から報告された情報を集約（大阪府北部地震）

でに参集できた人数はわずか8人。限られた人員の中、発災3時間後には災害対策本部を設置し、職員の安否確認や各区の情報収集に努めました。揺れが強かった地域では困りごとを抱えた方が声をあげられるようにチラシ

H23(2011)年からR3(2021)年の主な出来事

R3 (70)	R2 (69)	H30 (67)	H29 (66)	H27 (64)	H25 (62)	H24 (61)	H23 (60)
<ul style="list-style-type: none"> ○地域福祉活動・会議でもオンラインツールの活用が進む 	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症流行 	<ul style="list-style-type: none"> ○大阪府北部地震（6月）、西日本豪雨災害（7月）、台風第21号（9月）で大阪も被災 	<ul style="list-style-type: none"> ○「生活支援体制整備事業」全区展開 	<ul style="list-style-type: none"> ○「生活困窮者自立支援事業」開始 	<ul style="list-style-type: none"> ○見守りネットワーク強化事業に基づく名簿の活用、見守り活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域福祉コーディネーター等の設置（名称・配置状況は区によって異なる） 	<ul style="list-style-type: none"> ○東日本大震災の復興支援 ○地域活動協議会の設立が進む ○保健・医療・福祉ネットワーク推進員が全市的な制度として廃止

【この10年で市社協が職員を派遣した災害】

年	災害	主な派遣先	派遣期間	派遣延べ人数
平成23年	東日本大震災	宮城県 仙台市、気仙沼市	3月16日～11月1日	111人
平成23年	台風12号	和歌山県 新宮市	9月9日～10月11日	24人
平成26年	平成26年8月豪雨	京都府 福知山市	8月21日～8月26日	2人
平成28年	熊本地震	熊本県 菊陽町、熊本市	4月23日～7月17日	28人
平成30年	大阪府北部地震	大阪府 高槻市	6月28日～7月16日	9人
平成30年	平成30年7月豪雨	岡山県 岡山市、倉敷市	7月20日～10月14日	40人
令和元年	台風19号	福島県 郡山市	10月25日～11月17日	6人

をポスティングしていくと、家具が転倒して実は困っている、そんな声が寄せられはじめ、元の大学生ボランティアに家具の搬出を依頼して活動をマッチングする等、困り事を抱えた方々に寄り添い、市内で約24



各所から届く情報や連絡を、模造紙に書き出して共有
(市社協での災害対策本部設置訓練)

ボランティアニーズ受付状況表

ニーズ受付No.	処理状況	氏名	依頼者概要	活動内容	必要人数	必要物資	備考
1				家具の搬出 ・タンスのベタ上へ落ちてきたベッド使用	男 2-3人		午前中のみ可能
2				家具の搬出 ・天井までのタンスの背を向け搬出に不慣れな高齢者	2-3人		未だ壁が揺れている V6のエンジンが稼働しない 取組必要
3				家具の搬出(傾き) ・スチール製本棚の搬出 本棚の移動が必要	2-3人		次の作業でさらに下敷きの 可能性は高い。早急な対応
4				家具の移動 ・タンスの移動	1人		日中、仕事別

0件のニーズに対応しました。地震災害をとおして、安否確認に必要となる要援護者名簿の活用方法や初動対応における課題も浮き彫りになったことから、今後の教訓とすべく、市社協内に対応を検証するプロジェクトチームを発足。検証を実施して、災害時初期行動計画を策定する等、次なる災害への備えを進めています。

また、同年9月4日に近畿地方を横断した台風21号でも大阪は被災地となりました。暴風による被害、特に屋根への被害が深刻でした。ブルーシートを区役所から配付されても屋根に張

ることができない地域住民も多く、専門的な対応が必要でした。これを教訓に、高所作業を日頃から仕事としている人等を対象に、屋根のシート張り講習会を開催しテクニカルボランティアの育成等に取り組みました。

社協職員は地域住民の生活復旧に向けて、その専門性を発揮し、被災者支援活動を行う社会的使命があります。いつ来るかわからない災害に、いつでも社会的使命を果たせるように、市社協では今できることに取り組

培った経験を未来に託す

今回の地震によるお困りごとの情報を集めています

☆ 今般に困っています ☆
今回の地震被害による 家の片づけ、転倒した家具を直す作業 など

☆ ボランティアを希望する方へ ☆
ボランティアの皆さんは、被災者のお手伝いをしたいという気持ちから集まっています。なんでもできるわけではないということ、以下の点をご了承ください。
◎専門的技術を要することや危険を伴う作業など。 ◎要望にお応えできない場合もあります。
◎ボランティアの都合上、すぐにご要望にお応えできない場合があります。
◎ボランティアへのお礼は不要です。貴重品の用度も不要です。

この地域や活動に不慣れなボランティアさんもおられます。ご理解の程よろしくお願いします。

☆ 連絡先 ☆
東淀川区「東淀川区社会福祉協議会」まで情報をお寄せください。
※ 東淀川区社会福祉協議会
〒595-8501 東淀川区菅原4-4-37
お問い合わせ ☎: 06-6645-1111 (フリーダイヤル)
お問い合わせ ☎: 06-6645-1111 (フリーダイヤル)

☆ 受付時間 ☆
9:00 ~ 17:00 (土日祝日を除く)

《お問い合わせ》
東淀川区社会福祉協議会
(所在地) 東淀川区菅原4-4-37
(電話番号) 問い合わせ ☎: 06-6645-1111 (フリーダイヤル)

東淀川区社協がポスティングしたチラシ(大阪府北部地震)

この10年間の災害支援活動を通して感じているのは「災害時には平時のつながりや備えが役に立つ」ということ。平時のつながりがあったからこそ、犠

【市社協における主な取組み内容】

職員の対応力向上	災害対策本部設置訓練、学習会、災害VC運営者研修の実施 等
環境整備	BCP策定、マニュアル類の整備、行政や諸団体との災害に関する協定の見直しや締結 等
ネットワークの構築	おおさか災害支援ネットワークに世話役団体として参画 等

んでいきます。

この10年間の災害支援活動を通して感じているのは「災害時には平時のつながりや備えが役に立つ」ということ。平時のつながりがあったからこそ、犠牲者を出すことがなかったエピソードもよく耳にしました。市社協ではこれまで培った経験を未来に託すべく、職員の対応力向上、環境整備、ネットワークの構築等に努め、多発化、激甚化する災害への備えをすすめています。

災害に特化した取組みだけでなく、市・区社協事業は平時のつながりづくりを推進するものであり、地域で実施されている地域福祉活動はその最前線と言えます。コロナ禍による影響を受けて、地域福祉活動は制限を受け、また、大規模災害であっても外部からの支援は受けにくい現在の状況に対応していくべく、これまでの取組みを継続・発展させ、これからも全力を注いで、災害時への取組みを進めていきます。

暑中お見舞い申しあげます



社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

会 長 宮川 晴美
副会長 清水 弘 永岡 正己
吉川 郁夫 倉光 慎二
前田 葉子

社会福祉法人 大阪市北区社会福祉協議会	会長 小玉 始	社会福祉法人 大阪市都島区社会福祉協議会	会長 前田 起平
社会福祉法人 大阪市福島区社会福祉協議会	会長 矢山 英夫	社会福祉法人 大阪市此花区社会福祉協議会	会長 宮川 晴美
社会福祉法人 大阪市中央区社会福祉協議会	会長 浦野 皖次	社会福祉法人 大阪市西区社会福祉協議会	会長 笹倉 和忠
社会福祉法人 大阪市港区社会福祉協議会	会長 武智 虎義	社会福祉法人 大阪市大正区社会福祉協議会	会長 川上 満
社会福祉法人 大阪市天王寺区社会福祉協議会	会長 一本松三雪	社会福祉法人 大阪市浪速区社会福祉協議会	会長 北口 武司
社会福祉法人 大阪市西淀川区社会福祉協議会	会長 大垣 純一	社会福祉法人 大阪市淀川区社会福祉協議会	会長 三田 和夫
社会福祉法人 大阪市東淀川区社会福祉協議会	会長 吉田 正則	社会福祉法人 大阪市東成区社会福祉協議会	会長 清水 弘
社会福祉法人 大阪市生野区社会福祉協議会	会長 多田 龍弘	社会福祉法人 大阪市旭区社会福祉協議会	会長 宮本 正路
社会福祉法人 大阪市城東区社会福祉協議会	会長 高木 正博	社会福祉法人 大阪市鶴見区社会福祉協議会	会長 中田 俊二
社会福祉法人 大阪市阿倍野区社会福祉協議会	会長 永岡 正己	社会福祉法人 大阪市住之江区社会福祉協議会	会長 中野紀久雄
社会福祉法人 大阪市住吉区社会福祉協議会	会長 山下 保一	社会福祉法人 大阪市東住吉区社会福祉協議会	会長 川本 公夫
社会福祉法人 大阪市平野区社会福祉協議会	会長 林 幸男	社会福祉法人 大阪市西成区社会福祉協議会	会長 越村 市二

支えあう 住みよい社会 地域から
大阪市民生委員児童委員協議会

会 長 吉 川 郁 夫
副会長 四 宮 政 利
副会長 一 本 松 三 雪
副会長 山 本 眞 路

〒543-0021
大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内
電 話 6 7 6 5 - 5 6 0 9 F A X 6 7 6 5 - 5 6 0 3

一般財団法人
大阪市身体障害者団体協議会

会 長 手 嶋 勇 一
副会長 川 越 利 信
副会長 廣 田 しづえ

〒543-0021
大阪市天王寺区東高津町12-10
大阪市立社会福祉センター内
電 話 6 7 6 5 - 5 6 3 6
F A X 6 7 6 5 - 7 4 0 7

<p align="center">大阪市社会事業施設協議会</p> <p>会長 倉光 慎二 (大阪市地域福祉施設協議会) 副会長 中西 裕 (大阪市児童福祉施設連盟) 副会長 近藤 適 (大阪市保育連合会) 副会長 新田 正尚 (大阪市老人福祉施設連盟) 副会長 川端 均 (大阪市生活保護施設連盟) 副会長 山内 泰典 (大阪市障害児・者施設連絡協議会)</p> <p>【事務局】 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電話 6765-5606 FAX 6765-5607</p>		<p align="center">公益社団法人 大阪市ひとり親家庭福祉連合会</p> <p align="center">会長 北 玲子</p> <p>〒531-0071 大阪市北区中津1-4-10 大阪市立愛光会館内 電話 6371-7146 FAX 6371-6722 https://www.hitoren-osaka.org/</p>
<p>一般社団法人 大阪市児童福祉施設連盟</p> <p align="center">会長 中西 裕</p> <p>児童養護施設 母子生活支援施設 児童自立支援施設 乳児院 児童心理治療施設 福祉型障害児入所施設 児童発達支援センター</p> <p>事務局 社会福祉法人 大念仏寺社会事業団 〒547-0045 平野区平野上町1-7-3 電話 6791-5410 FAX 6791-7774</p>	<p>一般社団法人 大阪市私立保育連盟</p> <p align="center">会長 近藤 適 会員一同</p> <p>〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電話 6761-1171 http://o-shihoren.or.jp/</p>	<p align="center">大阪市生活保護施設連盟</p> <p align="center">会長 川端 均 会員一同</p> <p>事務局 救護施設 平和寮内 〒545-0011 大阪市阿倍野区昭和町3-4-27 電話 6628-6151 FAX 6628-0441</p>
<p align="center">大阪市障害児・者施設連絡協議会</p> <p align="center">会長 山内 泰典</p> <p>事務局 此花区障がい者基幹相談支援センター 風の輪内 〒554-0021 大阪市此花区春日出北1-1-4-101 電話 6461-5055 FAX 6461-5056</p>	<p align="center">社会福祉法人 愛徳福祉会 大阪発達総合療育センター</p> <p align="center">理事長 鈴木 恒彦</p> <p>南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関) わかば(医療型障害児入所施設・短期入所事業) ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業) いぶき(特定相談支援事業・障害児相談支援事業) フェニックス(医療型障害児入所施設・療養介護事業・短期入所事業) なでしこ(生活介護事業・児童発達支援事業)</p> <p>〒546-0035 大阪市東住吉区山坂5-11-21 電話 6699-8731 FAX 6699-8134</p> <p>訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業) 電話 6699-8855 FAX 6699-8856 ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問看護事業) 電話 7506-9223 FAX 6699-8856</p> <p>〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16 大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関) あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業) ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)</p> <p>〒552-0004 大阪市港区夕風2-5-3 電話 6574-2521 FAX 6574-2524</p>	
<p>のぼそう!健康寿命、担おう!地域づくりを 一般社団法人 大阪市老人クラブ連合会</p> <p align="center">理事長 野口 一郎</p> <p>〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター3階 電話 4304-8555 FAX 4304-8557</p>	<p>障がいのある人が安心して心豊かにすごせるように 社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会</p> <p align="center">理事長 小泉 いと子 役員・会員一同</p> <p>〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電話 6765-5621 FAX 6765-5623</p> 	<p>社会福祉法人 今川学園</p> <p align="center">理事長 魚住 誠一</p> <p>〒546-0003 大阪市東住吉区今川3-5-8 電話 6713-6106</p> <p>保育所・隣保館・子どもの家・ キンダーハイム・大和川園・今林の里・ ふれあいホーム・ハーモニー・ ワークセンターいまがわ</p>
<p>社会福祉法人 大阪自彊館</p> <p align="center">理事長 川端 均</p> <p>〒557-0014 大阪市西成区天下茶屋1-3-17 電話 6659-8181 FAX 6652-2218 http://www.ojk.or.jp</p>	<p align="center">社会福祉法人 大阪市障害者福祉・スポーツ協会</p> <p align="center">理事長 石田 易司</p> <p>〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12番10号 電話 06-6767-9981</p> <p>◇運営事業所一覧◇ 大阪市長居障がい者スポーツセンター 大阪市舞洲障がい者スポーツセンター 大阪市更生療育センター ワークセンター中津 ワークセンター中津 ワークセンター千里 大阪市立此花作業指導所 ワークセンター粉浜 中津サテライトオフィス 大阪市立早川福祉会館 サテライト・オフィス平野 大阪市障がい者相談支援研修センター 大阪市職業指導センター 大阪市職業リハビリテーションセンター 大阪市障がい者就業・生活支援センター 大阪市発達障がい者支援センター [エルムおおさか]</p>	
<p>社会福祉法人 大阪重症心身障害児者を支える会</p> <p align="center">理事長 三田 康平</p> <p>〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町2-23-11 電話 6622-3759 FAX 6622-3769 E-mail center@sasaeru.or.jp</p>	<p>社会福祉法人 大阪福祉事業財団</p> <p align="center">生きるを支える</p> <p align="center">理事長 茨木 範宏 常務理事 山本 政幸 常務理事 勝原 祐子 事務局長 桑原 一章</p> <p>〒536-0001 大阪市城東区古市1-7-8 tel 06-6931-0098 fax 06-6933-1699 mail : since1948@zaidanosaka.or.jp H P : http://www.zaidanosaka.or.jp/</p>	<p>社会福祉法人 柿の木福祉の園</p> <p align="center">理事長 宮川 ヒサ</p> <p>長居保育園 長居保育園乳児センター 長居子どもの家 長居西地域在宅サービスステーション ながいの里 居宅介護支援事業所 ながいの里 〒558-0004 大阪市住吉区長居東4-11-16 電話 6691-3669 FAX 6691-8292 http://www.kakinoki.or.jp</p>



<p>社会福祉法人 久栄会</p> <p>理事長 岩崎久直</p> <p>〒544-0013 大阪市生野区巽中3-14-3 電話 6756-5200 FAX 6756-6688 http://www.minori-en.com/</p>	<p>社会福祉法人 四恩学園</p> <p>理事長 中西裕</p> <p>〒558-0011 大阪市住吉区菊田4-3-9 電話 6607-2220 FAX 6696-5347</p> <p>●乳児院・児童養護施設 ●幼児・乳児・保育園 ●子どもの家(学童)・子育て支援センター ●地域密着型特別養護老人ホーム デイサービス・認知症デイサービス・ホームヘルプセンター 住吉区東地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・ 在宅介護支援センター</p> <p>http://shiongakuen.or.jp</p>	<p>社会福祉法人 四天王寺福祉事業団</p> <p>理事長 瀧藤尊淳 常務理事 塚原昭人 常務理事 坂本峰徳</p> <p>〒543-0051 大阪市天王寺区四天王寺1-11-18 電話 6771-7971 FAX 6771-8961</p>
<p> 社会福祉法人 スワンなにわ</p> <p>誠意・信頼・感謝</p> <p>理事長 樋口恵光</p> <p>認知症対応型通所介護 生活支援事業所 居宅介護支援事業所 児童デイサービス 有料老人ホーム 就労継続支援B型事業所 訪問介護</p> <p>〒556-0026 大阪市浪速区浪速西2-11-6 電話 6562-0456 http://care-net.biz/27/swan/</p>	<p>社会福祉法人 治栄会</p> <p>理事長 大森秀之</p> <p>〒534-0027 大阪市都島区中野町5-10-70 電話 4253-8055 FAX 4253-8066 https://www.jieikai.or.jp/</p>	<p>社会福祉法人 晋栄福祉会</p> <p>理事長 濱田和則</p> <p>〈鶴見区〉 茨田大宮ちどり 施設長 上東 恵子 〈都島区〉 東野田ちどり保育園 園長 江川永里子 〈城東区〉 城東ちどり保育園 園長 浅野 敦子 〈東成区〉 大阪市立東中本保育所 所長 高田 幸代 〈大正区〉 大阪市立北恩加島保育所 所長 西森 保子 〈北区〉 中之島ちどり保育園 園長 小林 操 〈中央区〉 御堂筋本町ちどり保育園 園長 高平 友子 〈福島区〉 新福島ちどり保育園 園長 藤本麻里子</p>
<p>社会福祉法人 水仙福祉会</p> <p>理事長 松村 寛</p> <p>〒533-0004 大阪市東淀川区小松1-13-21 電話 6328-3786 FAX 6328-3788 E-mail honbu@suisen.or.jp http://www.suisen.or.jp/</p>	<p>社会福祉法人 聖家族の家</p> <p>理事長 上利久芳</p> <p>〒546-0033 東住吉区南田辺4-5-2 電話 6699-7221 FAX 6699-7243</p> <p>児童養護施設 聖家族の家 乳児院 聖母託児園 児童心理治療施設 児童院 E-mail holyfamily@luck.ocn.ne.jp</p>	<p> 社会福祉法人 尚和会</p> <p>なのはなこども園</p> <p>理事長 張 はる江</p> <p>〒534-0023 大阪市都島区都島南通1-9-1 電話 6921-6818 FAX 6921-6819</p>
<p>社会福祉法人 なみはや福祉会</p> <p>理事長 竹本 榮</p> <p>〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電話 6761-3010 http://www.namihaya.or.jp</p>	<p>社会福祉法人 博愛社</p> <p>理事長 長野 泰信</p> <p>〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72 電話 6301-0367 FAX 6301-5347 https://www.hakuaisha-welfare.net/</p>	<p>社会福祉法人 日本ライトハウス</p> <p>理事長 橋本 照夫</p> <p>〒538-0042 大阪市鶴見区今津中2-4-37 電話 6961-5521 FAX 6968-2059 http://www.lighthouse.or.jp/</p>
<p> 社会福祉法人 みおつくし福祉会</p> <p>理事長 田丸卓嗣</p> <p>〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター内 電話 6765-5611 FAX 6765-5614 http://www.mioticsukushi.or.jp/</p>	<p> 社会福祉法人 みなと寮</p> <p>理事長 大西 豊美</p> <p>〒586-0052 河内長野市河合寺423番1 電話 0721-62-3700 FAX 0721-62-3711 http://www.minatoryo.or.jp/</p>	<p>社会福祉法人 都島友の会</p> <p>理事長 渡久地 歌子</p> <p>〒534-0021 大阪市都島区都島本通3-4-3 電話 6921-0321 FAX 6924-2055 http://www.miyakojima.or.jp</p>
<p> あふれる笑顔 社会福祉法人 優心会</p> <p>理事長 垣谷 隆太</p> <p>・介護老人福祉施設 ・通所介護 ・短期入所生活介護 ・居宅介護支援事業</p> <p>〒547-0014 大阪市平野区長吉川辺3丁目2番3号 TEL:06-6700-8000 FAX:06-6700-8400 http://yuushinkai.or.jp</p>	<p>学校法人 田島学園(奈良東病院グループ) 近畿社会福祉専門学校</p> <p>厚生労働大臣指定(介護福祉士養成校)</p> <p>理事長 鉄村 俊夫 学校長 榎 豪司</p> <p>〒534-0025 大阪市都島区片町1-5-13 大手前センチュリービル3階 電話 6136-1117 FAX 6136-1115 http://www.kinki-swc.ac.jp</p>	<p>印刷 × Web + α</p> <p>TOTAL COMMUNICATION 関西共同</p> <p>株式会社 関西共同印刷所 http://www.kansai-kyodo.jp</p> <p>大阪本社 〒531-0076 大阪市北区大淀中3丁目15-5 TEL 06-6453-3335(代) FAX 06-6456-2075 E-mail eigyo2@kansai-kyodo.co.jp</p>

「コロナでも、これならできる！」

活動メニュー①

新型コロナウイルス感染症の流行が長引く中、さまざまな活動を制限せざるを得ない状況が続いています。それでも、「何かをしたい！」「楽しみやつながりを持たたい！」そんなふうにいる方もいるのではないのでしょうか。

本誌ではこれから、「コロナでも、これなら

できる！」活動メニュー―感染リスクをゼロにすることは難しくても、リスクを低くして活動できるアイデア―を紹介していきます。紹介する活動メニューは、感染のリスクがまったくないものではありませんが、基本的な感染防止対策を講じたうえで、できそうなことからぜひ始めてみてください。

手紙・メッセージカード



長く会えていない友人や仲間、自筆の手紙やメッセージカードを送ってみませんか。

普段メール等でやりとりだけでは届きにくい気持ちも、届きそうです。

これを機会に「絵手紙」にチャレンジしてみるのでもいいかもしれません。（今号1、2面に関連記事を掲載）

ラジオ体操



屋外で、距離をとっておこなえば、3密を避けることができます。

毎日同じ時間・場所でメンバーが集まれば、会話をしなくてもつながりを感じられるのではないのでしょうか。

外出することが減っている人にとっては、運動不足の解消にもなります。（今号12面に関連記事を掲載）

風をよむ

「ドメスティックバイオレンス(DV)の加害者更生プログラムの普及の重要性」

大阪市立大学大学院 生活科学研究科 特任准教授 中島尚美

子どもが「見たくない！聞きたくない！考えたくない！どうにかしてほしい！あんな大人になりたくない！」と思いつつ、察したり感じたりするこゝろ、察したり感じたりするこゝろによる心理的虐待は、子どもの育ちに大きな影響を及ぼす。子どもは家庭内で、安全で安心できる環境を得て、心身のバランスを保ちながら育つ。特に困った時や辛い時、悲しい時や辛さを抱えている時に、傍にいて受けとめ、「大丈夫だよ」と励ましてもらえる特定の養育者（ほとんどが親）の存在が不可欠である。それが保障されていない環境で育つ子どもの心情は想像を絶する。不安や不信感、自信のなさや、悲しみとあきらめ等に埋め尽くされているのではないだろうか。そして、その環境から学習するのは、威圧的な態度やコントロールしようとする対人関係の持ち方である。

令和元年度の全国の児童相談所が受けた虐待相談件数は19万件を超え、その内の56%が心理的虐待である。コロナ禍の影響でDV相談の件数は急増し、深刻化の一途をたどっている。このような背景から、国は令和3年3月に「配偶者暴力に係る加害者プログラムに関する調査研究事業報告書（令和2年度）」をまとめた。プログラムの目的は、加害者が自らの暴力の責任について認知し、行動を変容させることにある。DV被害者支援の一環として、更なる加害を防止し、安全を高めるものとして位置づけられている。子どもは産まれてくる環境や親を選ぶことができない。だからこそ、暴力からの逃避や喪失体験のみならず、特定の養育者である大人（親）が過ちを犯しても更生できるという事実を知ることが、子どもの育ちに希望をもたらすと考える。その意味からも加害者更生プログラムの普及の推進を切に願う。

こんなこと やってます! 私たちの施設から ③8

特定非営利活動法人 **悠々会**
障がい福祉サービス事業所 **ゆうゆう美波途**

ラジオ体操でつなぐ地域との「つながり」

平成11年に地域で仕事がしたいと願う障がいのある方の保護者があつまり、小規模作業所「ゆうゆう美波途」が誕生しました。その後、平成20年に施設の移転と制度移行に伴い障がい福祉サービス事業所（生活介護・就労継続支援B型）として港区の三先地域で活動しています。

作業活動は3つの作業室に分かれて、ボルト・ナットの組み立てやカプセルトイの封入などの内職作業をおこなっています。利用者さんの特性は様々ですが、作業工程を分けることや、補助具等を工夫することで、みんなで取り組んでいます。一人一人のできることを、やりたいことに取り組むことで、仕事と社会参加の意識を大切にしています。

作業のほかに日課として運動不足解消、健康維持増進や作業室の違う利用者さん同士が集まれる場所として公園でのラジオ体操に取り組んでいました。



このラジオ体操が、地域福祉活

動計画をきっかけに地域の方々にも参加していただくようになり、地域の皆さんとの交流の機会となりました。顔見知りになることで会話も生まれ、「また明日ね」と声を掛け合う。そういった光景に、地域の中で障がいがある方も一緒に生活している実感を持つことができました。

この一つのつながりから、ふれあい喫茶やふれあい教育（三先小学校のこどもたちや地域の方々と一緒に、ラジオ体操をしている三先公園の清掃と除草）にお声かけをいただき参加するなど、色々なつながりへと広がっています。コロナ禍でも屋外でのラジオ体操は、人と人の距離が取れるので継続しています。交流の機会がどうしても少なくなる中、少しでも顔を合わせる貴重な機会となっています。障がいのある方が身近にいて、そこで暮らしていることが当たり前になることで理解が広がると思います。

顔が見える地域、会話のある地域、そういったなかに障がいのある人も混ざり合っ、誰もが楽しく暮らしていける地域になればいいなと思っています。

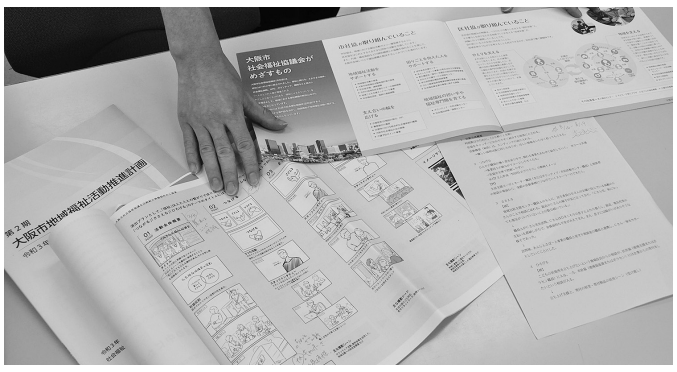
住所 〒552-0016 大阪市港区三先2-2-5
電話 06-6571-1119
Mail yuuyuu@future.ocn.ne.jp

協協 社社 市区
設立70周年記念
事業紹介動画、現在制作中!
―市区社協の魅力を発信―

市社協が今年、設立70周年を迎えたことは本誌（令和3年6月号、7月号）でもお伝えしてきましたが、それを機に、市区社協の魅力を発信すべく、事業紹介動画の制作を現在進めています。

紹介動画は、社協を広く知ってもらい、身近な存在、頼りがいのある存在に感じてもらうこと、また、「ささえる・つなげる・ひろげる」の3つをキーワードに、社協の役割を分かりやすく伝えることを目指しています。

完成後は、市社協ホームページをはじめ、さまざまな機会での発信を考えています。秋には完成予定ですので、ぜひ楽しみにお待ちください。



立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

1児までの保険 住まいの保険 けがの保険

www.ms-ins.com